

追い風、
向かい風

SPECIAL INTERVIEW

笑わせていても、笑われていても
相手が笑っていれば私はOK!

いとうあさこ

ASAKO ITO

お笑いタレント

衣装提供
ZUCCA / moyan ecri

激しい人見知りを心配された 小学1年生時代

私にとっては幼稚園が唯一の共学で、あとは小学校から高校まで女子校なんです。幼稚園では男女問わずいつもみんなで遊んでいたのですが、小学校に入ってから、いわゆる“人見知り”だったのかもしれませんが、気付くと一人で過ごしていて、でも「寂しい」とか「仲間に入れてほしい」とか、特に思わず、「これが私」くらいの感覚だったのかも。休み時間になると、わき目もふらずに校庭の鉄棒に向かい、延々とだるま回りをしていました(笑)。ただ、心配した母に促され、私は週に一度、ある大学へ行き、心理学部の学生さんとおぼしき方と一緒に1時間ほど遊んでいたんです。そこにはたくさんのおもちゃがあって、どれで遊んでもいいと言われるのですが、私が選ぶのは毎回ブラール。行く度にやっぱり一人で床一面にレールを敷き、電車を走らせていました。でも、いつのまにか友だちとピンク・レディーの歌を踊りながら歌うようになりましたね。「テレビに出よう!」と盛り上がって、得意げに先生に言いに行ったら、「ダメです」と静かに諭されて撃沈したことを覚えています。

思わず親しみがわいた 「完璧な先生」の人間らしい部分

小中高を通して、たくさんの先生方にお世話になりました。高校時代に数学を教えていただいた女性教師の金子先生もその一人です。金子先生はとても優しく、必要に応じて厳しく、私がする質問にも丁寧に答えてくださる先生で、私の中では「完璧な先生」でした。そんな金子先生と、成人後に私の友人を含めて3人で飲みに行ったときのこと。会話に花が咲き、食事を楽しんでいると、金子先生が「私、ピーマンが嫌いなの」と仰って、ピーマンを残されたんです。それが、私には衝撃的でした。あの「完璧な先生」がピーマンを残すの??

いとう・あさこ | いとう・あさこ |

お笑いタレント。1970年、東京都生まれ。私立雙葉高等学校卒。1997年「ネギねこ調査隊」を結成。2001年、日本テレビ「進め!電波少年」の企画「電波少年的15少女漂流記」に参加。2003年にコンビを解散してからは「いとうあさこ」で活動。現在は、日本テレビ「世界の果てまでイッテQ!」、NHKEテレ「スイエンサー」、フジテレビ「トークウィーンズ」などのテレビ番組や、文化放送「大竹まこと ゴールデンラジオ!」、「ラジオのあさこ」、NHKラジオ第一「あさこ・佳代子の大人なラジオ女子会」などのラジオ番組にレギュラー出演。エッセイ集「ああ、だから一人はいやなんだ。」(幻冬舎)は、1・2巻共に笑えて、泣けて、元気になれるとの声多数。

て。本来は、先生である前に人間なんですけど、私にとって金子先生は人間である前に先生だったんです。だから突然、人間の部分を見せられて、驚いたのと同時に「金子先生も私と同じ人間なんだ!」と親しみがわき、メールアドレスを交換させていただきました。今も、事あるごとに激励のメールをくださいます。

先生方との交流という意味では、年賀状でつながっている先生が10人ほどいます。私が通っていた高校は進学校なのですが、その当時、私は進学しなかった唯一の生徒。だから「私は元気に頑張っています!」という意味を込めて、卒業後もお世話になった先生たちに年賀状を出し続けています。

私に力を与えてくれた 視聴者からの手紙

高校卒業後に遅めの反抗期が訪れ19歳で家出し、アルバイトの日々。20代では悲喜劇の両方を演じる舞台女優になりたくて、バイト代から授業料を捻出し、舞台の専門学校に通いました。ウケる喜びを知ってからは、友だちとコンビを組み、お笑いの世界へ。正直なことを言うと、お笑いブーム真ただ中だったので軽い気持ちで足を踏み入れたんです。ところが初日に行ったライブのネタ見せで、大勢の“無名”だけど“面白い”人を目の当たりにし、ズブズブとこの世界にハマっていききました。以来、「嘘はつかない」だけを信条に、紆余曲折を経て今日までやってきています。嘘はつかない主義なので、嫌なもの本気で嫌がるし、怖ければ本気で怖がります。そんな私を見て、視聴者の皆さんがガラガラ笑っているのを見て、私は大興奮しています。「癖」ですね(笑)。

あるテレビ番組で、異国のビーチに出現する「光の道」を私が歩くという企画があったんです。要は、遠浅の海の中に大きな岩があって、その岩に開いている穴に夕日が差し込むと、その光が道のようになってビーチまで届くというもの。でも、その日は悪天候で、海は大荒れ。「光の道」など絶対に現れないという状況なのに、番組スタッフさんが「一応、確認しに行ったらどうですか」と言うわけです。「何の確認だよ!」と思いつつも遠浅の海を歩き始めると、案の定、波にのまれるわ、転がるわ、岩にぶつかるわで、本当にイヤな口でした(笑)。でも後日、そのオンエアを観た男性の方からお手紙を頂戴しまして。そこにはこう書かれていました。「自分はずっと心の病気で、家に閉じこもり、仕事にも行けない毎日でした。でも、先日、いとうさんが何度も転びながら荒れた海を歩くシーンを見ていたら、妻に『あなた、まだ笑えるじゃない!』と言われ、笑っている自分に気がきました。ありがとうございます」と。これには私が力をいただきました。私は「笑わせている」とか「笑われている」とかどうでもいい。見ている方が笑ってくださっているのなら、なんでもいいんです。

風向きなんて気にしなくても 一生懸命に生きていれば前進できる

コーナータイトルの『追い風、向かい風』にちなんで、自分の人生を振り返って見たのですが、私は風向きを気にせず生きてきたんだと気がきました(笑)。ただただ一生懸命に生きてきたので、風向きが分からなかったのかも。なので、はたから見れば、追い風のときには背中を押されてグングンと前に進んでいたのかもしれないし、向かい風のときには前進して



文化放送「ラジオのあさこ」(土曜午前7:00~9:00)でパーソナリティを務めるいとうあさこさんと文化放送アナウンサーの砂山圭太郎さん(右)。「『聴くだけで笑顔になる番組』を目指し、リスナーの皆さんからのメッセージと素晴らしい音楽、そこにトークを交えてお届けしています!」

いるつもりでも後退していたのかもしれませんが。それでも、今いる場所までは進んできているのだから、結果オーライ。「風がどっちを向いていても、一生懸命に生きていけば前には進む!」っていうのが、私の結論です。「一生懸命に生きる」なんて言うと、何か大きな努力をしているみたいに思われそうですが、そんなことはなくて、「生きる」ってそれだけで大変なことだし、神聖なことだし、素晴らしいことだと思うんです。だから、私は目標や抱負を尋ねられたときは「生きる」と答えています(笑)。



いとうあさこさん
とっておきの手土産をプレゼント!

プレゼントクイズ(P36)正解者の中から抽選で2名様に、いとうあさこさんが絶賛する、加島屋の看板商品「さけ茶漬」をプレゼント。ふるってご応募ください!

わたしの『ダイスキ!』

「大久保パコ美」

パコ美は、大久保佳代子さんの娘です。しつけや健康管理は、お母さんである大久保さんの役割。私は「ばあば」なので、ただただかわいがるのみ。おやつをあげたり、撫でくりまわしたり、顔を舐め放題に舐めさせたり。本当に子育ての“いいところ取り”です(笑)。「わたしのダイスキ!」が人んちの犬なの?」と思った方にお伝えしましょう。大久保さんなんて、昔、知らない人の犬をスマホの待ち受け画面にしていたことがあるんですから!

